



第17回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール

予算生活から見えてくる損と得

兵庫県・滝川第二高等学校 2年 藤原 康多

「国に予算があるように、家計にも予算を持つのは当たり前。」これは母の口癖だ。

私は幼稚園の年長の頃からお小遣い帳をつけている。そして金銭教育を受けてきた。家計簿をつけ続けている母は毎年、12月頃から翌年1年間の予算を考え始めている。1年間の予算、月の予算を立て予算生活が始まるのだ。予算を立てれば大きな財産を失うことなく家庭に合わせた貯蓄も無理なくできるそうだ。このことは旅行にも上手く活用でき、充実した旅ができることに気づかされた。

お祝いが重なって、念願だった家族旅行を海外に決定した。生まれて初めての海外旅行だ。今回は良い機会だからと、母と一緒に旅行計画ならぬ旅費・予算計画を立てることになった。

旅行先は家族会議で多数決をとってグアム島に決まった。多分普通の家庭なら、ネット検索か書店で旅行関連本を購入するのだろうが、我が家の財務省は違った。確実な情報を得るために、母は図書館でグアム島関連の旅行雑誌を数冊集めて、吟味してから絞り込み3冊借りて情報収集元にした。美味しい食事をして、のんびりと過ごすことが家族全員一致した旅行案だった。

お金の遣い方。何に費用をかけ、どの部分を削るか、家族全員の希望を聞きリストを作成した。優先順位は食事のことになった。朝食はホテルの宿泊費に含まれているので3泊4日分の内の3日分の昼食、夕食代を決めることになった。メインは夕食、そのため昼食は軽めでリーズナブルにしようと思った。食べたい物をそれぞれリストアップした。不思議な話かもしれないが我が家では、「お店に行ってから決めよう。」という発想が誰一人ないのだ。暗黙のルールというか時間の無駄を省くというか、家族全員がお店に行くまでに注文がほぼ決まるのだ。

いよいよ食事の予算に入る。お店のメニューを見ながら電卓を弾きノートに記入する。たたき出した数字を実際に見ると高額なことに驚く。ちょっと贅沢^{ぜいたく}しすぎかとも思ったら手が止まった。予算を立てると、具体的に修正する箇所が見いだせることに気がついた。自分なりに考えたプランをいくつか用意して家族会議にかけてみようと思った。

次は買い物。両親の買い物リストは既に決まっていた。この日のために積み立てをしているので予算には組み込まなかった。兄は貯めていた貯金を遣う予定なので、今回の買い物予算は辞退するとキッパリと断ってきた。私も兄みたいにカッコ良く言いたかったのだが、貯めていたお小遣いだけでは到底買えない代物なので、父に交渉して少しだけお小遣いの前借りを頼んだ。後はお土産代だ。父から順にお土産を渡す相手をノートに記録して個数と予算額を記入する。近所や親戚は、まとめて母のリストに計上する。母は私と兄にくれぐれも買い忘れがないようにと釘を刺した。というのも過去に大変な失敗をした。私がお土産を買い忘れたため祖父母に渡すはずだったお土産を私が奪い取ったのだ。祖父母は気にしないと言ってくれたのだけれど、母は大激怒していた。そんなこともあり私と兄はお土産リストを慎重に考えた。全ての予算が出揃^{そろ}った。何度も見返し、何回も計算をし直して旅行予算案が完成した。すると横で見ていた母が「つけ足してね。」と、予備費と書いて、その横に金額を入れた。意味を聞くと予算よりも少しオーバーしてしまった分の損失補てんなのだ。確かに物価の変動も考慮しなければならない。しかし額が少々多いのだ。その理由はというと、旅行中の費用だけではないのだ。旅行から帰った翌日の、あくまでも仮の予算。帰宅後、旅行日数分の4人分の洗濯から始まるのだ。そして旅行の片付けが待っているのだ。ある程度は母に協力するのだが、男性陣はどうも不器用で逆に仕事を増やしてしまうようだ。だから母には申し訳ないが任せっぱなしになる。

帰宅して1日分の食事は、冷凍保存の作り置きをして行くそうだが、作業を持ち越してしまった場合のことを想定し、保険で、その翌日の家族4人分の夕食費を換算したそうだ。なるほどと納得した。母は少し申し訳ないという様子だったが、きっとそのお金を遣うことはないだろう。主婦歴ベテランの母の計画は先読みをはるかに超えている。申し分のない予算案が完成した。家族皆の

意見を取り入れて、弾き出した金額だ。

漠然と考えていた旅行費用だったが、今回は具体的に考えて出したリアルな金額。数字と丁寧に向き合った時間だった。

ドキドキする中、家族会議が開かれた。一つ一つの説明は学校の授業中の発表よりも緊張した。母の助言のお陰もあって無事に予算案が通った。承認された。その喜びはちょっと認められたようで嬉^{うれ}しかった。父からは「一人で良く最後まで頑張ったな。」と労いの言葉をもらった。

いよいよ旅行出発の日が来た。生れて初めて見る外国の地、グアム島。あたり前だが英会話が飛び交っている。見る物、食べる物全てが新鮮だった。喜びを一つ一つかみしめた。ところが、予算に入れていなかった美味しそうなスイーツを発見した。食べたい。私の頭の中は、どの予算から捻出したら、このスイーツが食べられるか頭を抱えた。しかし母は動じずに「軌道修正はできるから気にしないで思いっきり食べようよ。」と言って注文した。とても美味しかった。

家族それぞれが余暇を楽しみ、買い物もお土産も充分にでき、帰国の途に就いた。

何の計画も立てずに旅行に行っていたら心残りになることが結構出ていたと思う。しかし目的を持ち、意味のあるお金の遣い方、予算を立てて行動することで心にゆとりが生まれ充実感がでた。誤算もあったが、予算より随分と下回っていたので予算額合計は赤字にはならなかった。

消費・投資・浪費。この旅行の中で浪費は1円もなかったと私は思う。

お金の遣い道は人それぞれだが、大切な財産だ。遣えることに感謝の気持ちを持ちながら、これから先の人生も有意義なお金の遣い方をしていこうと思った。

